

小田原市立町田小学校創立 75 周年記念事業 「町田っ子に二宮金次郎像を贈ろう」

建立にあたり

昭和二十二年十一月に開校した町田小学校は、昨年創立七十五周年を迎えました。新型コロナウイルスは学校生活にも大きな支障をもたらし、育ち盛りの子供たちには長い我慢の時期が続きましたが、ようやく本来の楽しい学校生活が再開できるようになりました。この七十五周年の佳節にあたり、私たちは未来の子供達の健やかなる成長を願ひ、この度「二宮金次郎像」を寄贈いたします。

二宮金次郎像と聞くと、その銅像のカタチだけを捉えて批評したり、何やら古めかしい印象を抱く方もいるようですが、私達はこれらとは異なる、もっと熱い思いをもってこの像を寄贈します。温故知新という言葉があるように、日本には、世界に誇れる、古くて新しい、大切な文化があります。

そして、この小田原にも、この町田小学校にも、古くて新しい大切な文化がたくさんあるのです。

二宮尊徳先生は、自然災害や経済の低迷が続き、人々がやる気を失っていた江戸時代の末期に一円融合の精神を唱え「徳」という言葉を使って、その土地やその人が持つ、長所や取り柄を引き出しました。

そして「道徳」と「経済」の調和を図りながら、地域のみんなが心豊かに暮らせる地域社会を作ることを目指した小田原が生んだ偉大な人物であり、その「報徳」と呼ばれる教えは、現代のSDGsの精神にも通ずる。

これからのお手本ともいえるべき、古くて新しい郷土の大切な教えなのです。

この学校に通う子供たちが大人になった時、

これからもずっと平和で、心豊かに生きることができる社会を築くためには、世界中で、もっと活躍できる子供たちを育てるためには、

私たちは今、まずはもう一度日本の徳・日本人の徳を再認識する必要があります。

同様に、この小田原が持続可能で、もっと心豊かに暮らせるようになるには、私たちは今、もう一度自分が住む地域の徳を再認識する必要があると思うのです。

家族や親戚やご先祖さまのこと、友達のこと、隣人のこと、

現代の繁栄を築いてくれた先人たちのこと、

自分が住む町のこと、この国のこと、世界のこと、このことをもっとよく知ることができたら、子供たちはきっと将来、頼もしく思いやりのある、心豊かな大人に成長してくれるのだと思います。

この銅像が毎日学校に通う子供たちに

さまざまな新たな気づきを与えてくれることを願います。

明日の日本を負って立つ つぼみよ ひらけ

ああ 町田校

令和五年十一月吉日

町田小学校創立七十五周年記念

二宮金次郎像寄贈プロジェクト実行委員会一同

【町田小学校の歴史と銅像寄贈の経緯】

町田小学校は昭和22年11月に開校しました。現在、卒業生は5,862人を数えています。時代の変遷と共に私たちの暮らしも大きく変化していますが、少子高齢化が進む将来においても子供達には夢や希望をもって元気で健やかに成長してほしい。長い長いコロナ禍が続くなかで、学校や子供たちの為に何か少しでも記念になることをしたい。そんな思いから本記念事業案が起草され、同窓会を中心として有志による実行委員会が形成され募金活動が始まり、多くの賛同者からの寄付を得て銅像建立となりました。

二宮金次郎像建立にあたりご協力いただきました皆様に心より厚く御礼申し上げます

町田小の子どもたちに二宮金次郎像を贈る実行委員会 会長 田嶋 浩充 (町田小学校同窓会 会長)

特別協力 町田小学校同窓会

セントラルハイツ自治会 / 33区自治会 / 34区自治会 / 36区自治会 / 37区自治会

小田原報徳社 (報徳二宮神社崇敬会)